

# 集いの場になれば

く木のおもちやづくりの取り組みく

みんながいつ来ても、  
木のおもちやに親しめる場としてあり続けたい

木のおもちやづくりグループ 代表 金田美紀

笑顔が絶えない  
充実した時間

月に1回、町図書館車庫には、子どもたち、大人たちの笑い声や、小刻みにタタタタッという「電動糸のこ」の軽やかな音が響いています。

木のおもちやづくりグループ（金田美紀代表）は、今年で活動20年を迎えました。会員は7人。和気あいあいの雰囲気の中、木を材料としたおもちゃづくりを楽しんでいます。「最初のころは、電動糸のこなどの道具がなく、ほかの町に借りに行って活動していました。場所も黒坂と根雨を交互に行ったり来たり。で

も、町図書館が完成し、道具もそろえていただいていたからには拠点を町図書館車庫に。自分たちが木のおもちやづくりをやりたかったから、今も続けられているんです」と代表の金田さんは話します。

木のおもちやの  
魅力を皆さんへ

その活動の始まりは、木のおもちや作家との出会い。25年前、日野町で活動されていた小松強志さん（現在、



電動糸のこに向かう会員の腕は確か



慣れない参加者にやさしく指導するグループ代表の金田美紀さん



交流しながら作品作りを進める。やさしい指導に子どもは安心



いつも笑顔のグループ会員

長野県在住」との出会いが考  
えを変えたきっかけになった  
とのこと。

当時、保育士だった金田さ  
ん。「壊れたら、また買って  
もらえばいいという子どもの  
声を聞き、職員で悩んでいた  
時、木のおもちゃの温もり、  
夢中で遊ぶ子どもたちの姿を  
見て『良いもの』と確信しま  
した。最初は保育士だけだっ  
た会員に、保護者も加わり、  
グループとして活動すること  
になりました」と振り返りま  
す。

今は、PTA活動や子ども  
会、子育て支援関係団体など  
から体験希望の依頼があり、  
米子市や日南町などにも出か  
けているそうです。

町内では、ふれあいまつり  
や町公民館まつりをはじめ、  
町図書館の木のおもちゃ貸し  
出し、ブックスタート、日野  
ボランティアネットワーク  
(小谷博徳会長)の高齢者誕  
生月プレゼントの組み木作成  
など幅広く活動しています。

また、今年で7年目を迎え  
る根雨小学校への出前教室  
や、子どもたちの夏休み期間  
中に、木のおもちゃづくり教  
室を計画。子どもたちが木の  
温もりに触れる機会をつくっ

ています。それぞれ講師に  
は、グループと親交のある組  
み木デザイナーの小黒三郎さ  
ん(岡山県倉敷市)、おもちゃ  
作家の若林孝典さん(岡山県  
美作市)というプロの作家を  
迎え、参加者に好評を得てい  
ます。

### 木の温もりを 被災地へ

また、東日本大震災被災地  
に木のおもちゃを贈ろうとい  
う小黒さんの活動に賛同。会  
員らは、毎月のグループ活動  
や体験教室の参加者呼びか  
けを行い、組み木を作ってく  
きました。参加者からは復興を  
祈るメッセージを添えるなど  
多くの協力が得られたそう  
です。その後、金田さんへ被災  
地にあるおもちゃ工房からお  
礼の電話があったということ  
です。

「全国から小黒さんの元に  
組み木が集まり、直接子ども  
たちに遊び方を教えながら、  
一人に一つ手に渡るように持  
参されているそうです。子ど  
もたちが寂しくないようにし  
たいというのが小黒さんの思  
いです。私たちが作ったもの  
も誰かに届き、遊んでくれて  
いるんだろうなと思うと、う

れしいし、これからも続けたい  
です」と、金田さんは小黒  
さんの活動が、被災地支援に  
なった実感を感じています。

### ときめきを感じ 元気になるれます

「木のおもちゃは笑顔にな  
れるもの。人との出会い、作  
品との出会いがあり、私たち  
は『ときめき』を感じ、元氣  
になれます。子どもから高齢  
者までたくさんの方が楽しめ  
ますので、木のおもちゃに気  
軽に触れてほしいです。でき  
あがった作品には愛着がわか  
りますし、世界で一つ、作られ  
た人の手作りおもちゃとなり  
ますよ」と会員は元氣いっぱ  
いです。

今後のグループの活動につ  
いて金田さんは「マイペース  
で活動したいです。夢は木のお  
もちゃが並び、そのそばに  
は制作する場所。お茶も飲め  
るみんなの集いの場になれば  
いいな」とっこり微笑いま  
す。

活動は月に1回、町図書館  
車庫が会場です。どなたでも  
参加できます。日程など詳し  
くは、町図書館(電話72・  
1300)まで。

今回で3回目となる

『木のお雛さま展』を町公舎で開く

来館者は延べ300人!

2月24日から26日までの3  
日間、組み木デザイナーの小  
黒三郎さん、木彫家のあらい  
みえこさん(長野県松本市)、  
おもちゃ作家の若林孝典さん  
の作品が一堂に展示された、  
木のお雛さま三人展が町公舎  
で開かれました。

16年前にあらいさんが6年  
間日野町に住んでおられたこ  
とが縁で始まったお雛さまの  
展示会。1回目は平成19年2

月、2回目は平成21年2月、  
今回で3回目となります。

色とりどりのお雛さまをは  
じめ、各作家の皆さんの作品  
が展示された町公舎には、3  
日間で300人が訪れ、笑顔  
があふれました。展示のほか  
組み木やおもちゃづくりの体  
験教室も開かれ「直接作家か  
ら指導を受ける機会はない」  
と県外からも参加者があるな  
どにぎわいました。



作品の説明を受けながら見入る来館者